

2013年春

福島っこ元気村キャンプ

報告書

総括メッセージ

今回で3回目を迎えた「福島っこ元気村キャンプ」。ひだまりファームという新しいフィールドで、プログラムも過去とはまたひと味違ったキャンプにしよう、と運営スタッフ一同アタマをひねって準備をすすめてきました。

昨夏は、森の中でのテント泊やいかだを使った川下りなど、冒険的なプログラムが多かったのですが、今回は日の出山登山というチャレンジプログラムを中心に、遊びプログラム・創作プログラム・食事プログラムなどをバランスよく取り入れた形となりました。ぱっと見は刺激が少なくなったように見えますが、こどもたちの「生きるチカラ」を伸ばしていく、地道だけれども間違いのない体験がつまったキャンプになったという自負があります。毎日交替で食事の下ごしらえや配膳をしたり、みんなで歌を歌ったり、落書き大会をしたり・・・なんていう日常的な、いわばどうってことのない風景の中にも、その瞬間瞬間でこどもたちの表情は生き生きと輝いていたのです。

今まで以上に力を入れたのは「食」。安全な食とは？ 楽しい食とは？ 正しい食とは？ 答えはそうカンタンに見つからないけれども、スタッフもこどもも食に真正面から向き合ったキャンプでした。盲目的に食材を選ぶのではなく、食べてもらうこどもたちの姿を思い浮かべて、安全な食材を考える。食べるこどもたちは作ってくれた人たちに思いを馳せ感謝の気持ちを大切に。身近なメニューも仲間と協力したり自分で工夫したりして食事そのものを楽しいイベントにしてしまう。「いただきます」「ごちそうさま」に気持ちをこめる。きっと少しは伝わったかな、と思っています。

今回、「こどもルール」を作りました。守るべき生活のマナーやルールは、おとなとしてしっかりこどもに伝えていこうという思いのあらわれがこの「こどもルール」です。こどもたちにどこまで深く接したらいいのかわからない・・・というスタッフの声から生まれた「こどもルール」。キャンプだからいい、こどもだからいい、今回だけはいいい・・・というのではなく、おとなとしてこどもに当然伝えていくべきコトを具体化していく取り組みでした。

運営面では、前回までとは大きく運営体制を変え、実行委員体制を敷き、運営スタッフを各部署に配置しました。指揮系統をはっきりさせ、緊急時の対応やプログラム変更に伴うスタッフ配置の変更など、混乱なく柔軟に対応できる組織づくりを目指しました。私は今回キャンプリーダーという立場で、全体を指揮する立場にいましたが、各スタッフが自分の役割をしっかりと把握し、意識してキャンプを支えている様子がよくわかりました。

サヨナラと手をふるスタッフの胸の中にはきっと少なからずお別れの寂しさがあったと思いますが、バスの窓から手をふるこどもたちはニコニコの笑顔。「ありがとう」「また来るね」。言葉にはならなくてもそう言っていたように、私には思えてなりません。

また元気村において。いつでも待っているよ。

キャンプの概要

このキャンプの背景

3.11 から数ヵ月の後、原発被災地から東京へ避難されている方々と、たまたま知り合う機会がありました。緑豊かな暮らしから、大都会へと住環境が変わり、仕事や、学校に通わない暮らしの中、心のゆとりを失いつつあると聞き、みんなの森財団の活動に彼らをお誘いしたのがキッカケです。2011 年末には、都内の避難者が一同に集まる会を開催するなどしました。

そうした活動を通じ、事情があって避難しない（できない）けれど、子供たちの健康、将来に不安を抱えながら暮らす家庭が沢山あることを知り、元気村キャンプを企画しました。

1 回目は 2012 年春に 1 週間のキャンプを開催。終了後には福島県で報告会を実施し、ご家族の方々と交流を深め、どのような暮らしをされているのか見聞きました。

そこで感じたのは、原発被災地では、放射線への不安が人と人との関係に分断をつくっているという現実です。これは放射線がうみだす健康や、安全の問題だけでなく、人間関係という人間社会の心の問題でした。

人の心に根ざしてしまった問題は、そう簡単に終わるものではありません。そこで当キャンプでは最低でも 5 年継続することをみなさんへ宣言し、そこに住む人々と一緒になってキャンプをつくりあげてゆきます。

そこで継続性を高めるため、有志で「福島っこ元気村キャンプ実行委員会」を設立するに至りました

目的

- ・直接自然に触れることができない福島っくに、土や、水、木や、草花に触れる機会を提供する。
- ・自然体験、集団生活を重ね、子どもが成長する姿を、お父さん、お母さんに届ける。
- ・食べ物の大切さを考え、放射線から自らの体と未来を守る方法を子どもたち自身に伝える。

コンセプト

普段できない自然体験、集団生活をベースにした、みんなの心の故郷【福島っこ元気村】をつくろう！

ねらい

このキャンプは出会いを大切にし、継続していくことで、参加するみんなの心の中に新たな故郷を作りだす。そこでは、自然の中での暮らし・体験を基本とし、子どもたちの五感を刺激する。また性別・世代を超えた集団生活で、良いことも、悪いことも、みんなで 1 つのことを共有し、集団の中での自分、自分と周囲との関係を意識する環境に子どもたちも、大人たちも身をおく。

この春のキャンプはどのように成立ったか？

「どうにかしなければ！」という勢いだけで立ち上げた当キャンプですが、気持ちだけで継続できるものではありません。今は安定的に運営していくための支援体制を築く段階にあります。被災地への関心が失われていないという事実と、多くの人の支援があって運営できているのだという当たり前のこと。

この2つを伝えることで福島に住む人々と、その外に住む人々との相互の理解が進むことを目的として、この春、どのような人の関係性の中で運営されたのか記します。

運営スタッフ

今回から主体的にかかわる運営スタッフと、お手伝いしてくれるボランティアスタッフとを明確に分けました。運営スタッフは10名。キャンプの計画から、実行、ふりかえり、次回に向けての報告書づくりまでを行います。事前に福島のお父さん、お母さんと打ち合わせをし、企画を立て、人と、お金集めをします。具体的には2週に1度の全体会議、チームごとの打ち合わせや、事前の施設・フィールドの下見、協力者との調整などを行います。福島へミーティングにいたり、迎えにいたりするのも運営スタッフです。キャンプ期間中も長期参加することが多く、各チームの責任者を務めます。終わった後は資料の作成や、協力者への挨拶まわりなど、計画から、こまごまとしたことまで行います。彼らがいなければキャンプを行うこと自体、考えられません。

ボランティアスタッフ

10名の運営スタッフだけで40名の生活の面倒をみることはできません。キャンプ中は、毎日布団上げから始まり、三食自炊して、風呂に入ります。1週間同じスタッフで対応した方が子供たちとの信頼関係ができることもあり、各班の大人リーダーは全員が全日程参加してくれました。また子供たちはテンションが上がっているので、相手をするだけでも体力が必要です。子供たちと年齢の近い高校生スタッフのお陰で助かりました。反対に食事班は子供たちの前にでることが少ない裏方の仕事です。「作っては、片付けて」を繰り返すだけで1日が終わってしまいます。施設外でのプログラムの日は、車を出したり、プログラムの手伝いが必要になります。また専門性のあるスタッフ、特に医療知識を持った方々の参加はこのキャンプの安全性を高めてくれています。こうした運営スタッフに足りない部分を補ってくれる存在がボランティアスタッフです。

食材や物資

初回キャンプの時、福島の情報ほとんどない中、「食材はなるべく西から手に入れた方が親御さんも安心なのは？」という想定で、西日本へ食材の提供を呼びかけました。今回もまた要望に応じて頂いています。伊賀有機農業推進協議会さんからは野菜を。紀州の観音山フルーツガーデンさんからは、おなじみのはっさくや、きよみオレンジを頂きました。また個人の方たちからも同じように支援をうけています。中にはたまたまこのキャンプのことを知り、こちらが指定する野菜や、物資を購入して送ってくださる方がいます。必要なものは大概お金で買える世の中ですが、呼びかけに応じてくれる人がいるという事実が、このキャンプに関わる者を励ましてくれます。また、様々な支援の方法をこのキャンプにつくることで、少しでも多くの方が元気村の輪に加わり、被災地へ向けて「みんなのこと、忘れてないよ！」というメッセージを発信し続けられればと思います。

チラシ

今回はじめて元気村キャンプのチラシを作成しました。今、福島で大人気の元気村キャンプ？（「福島っこ」でインターネット検索してみてください）なので、参加者を集めるのではなく、関わる人を増やす

目的で製作しました。協力者が増えれば安定した運営につながるし、被災地への関心を持ち続ける人が一人でも増えればいい。このデザインもボランティアで製作してもらいました。どうです？素人っぽくないでしょ？

宿泊施設

実は宿泊場所は毎回の課題です。設備が十分でなかったり、予約や、コストなど、場所によって課題もまちまちでした。今回は生協「生活クラブ東京」さんが管理する「協同村ひだまりファーム」を利用させて頂きました。周りが子供たちがいだけ遊べる場所であったこと。宿泊棟と、別棟があって、スタッフ専用の休憩スペースが確保できたこと。大きなお風呂があるのが特にありがたかったです。これまでは毎日日帰り温泉を利用しなければならなかったのも、労力も、費用も馬鹿にならなかったのです。利用前に生活クラブの理事会に諮って頂き、利用料金を半額にして頂くという特例を受けることもできました。福島支援のキャンプだからということです。その半額分は、組合員のみなさんのカンパから賄っていただきました。

プログラム

プログラムには、運営スタッフが企画して実行まで行うものと、外部からの持ち込みや、共同で実施するものなど、いくつかスタイルがあります。大久野中学校の生徒さんたちには毎回子供たちと一緒に遊んでもらっていますし、みんなの森財団では記念植樹をした景観の森に樹木の育ち具合を見に行きました。また協同村のスタッフのみなさんからは、じゃがいもの植え付け体験をさせていただきました。これは「食事を大切にする」、「土に触れる機会を作る」というキャンプのコンセプトに沿って実施していただいたものです。その協同村を紹介してくれた、にしがわ大学のみなさんは室内でレクリエーションをしてくれました。本当はみんなで鬼ごっこをするはずだったのですが、前日からの天候が悪く、足元がぬかるんでいたため、臨機応変にプログラムを変更した結果です。持ち込み企画は、運営スタッフの体力負担を減らし、無理なく子供たちにプログラムを提供できることと、地域の人たちがキャンプに参加できることもあって、継続性を高める上でとても大切です。そういった点でこれからもこの繋がりを大切にしていきたいと考えています。

メディア

地域の理解、協力を得たいということと、福島にて現在おきていることに関心が失われないようにとお伝えしたところ、西多摩新聞さんに取材をしていただきました。繰り返しになりますが、継続していくにはそこにいる人々の理解と、協力がとても大切なのです。こういった取り組みの成果はこれからのキャンプに現れることでしょう。

寄付

およそ 50 名の方から、75 万円程の寄付をいただきました。寄付をしてくださる方の多くは、初回からずっと寄付してくださっている方であったり、友達や、花咲き村、みんなの森の活動でつながっている人々であったりします。また今回は大家さんの寄付がとても増えました。「なぜ大家さん？」と思うかもしれ

ませんね。実は友人の大家さんを通じて、全国の大家さんに寄付の呼びかけを行う機会をもらいました。不動産投資の情報を扱うホームページでしたので、正直なところ、お金にならない呼びかけに応じる方がいるのか疑問でした。ところがこちらのホームページを見てという大家さんからたくさん支援をいただきました。中にはキャンプを見学にいっしょだった方もいます。一人から100万円もらうより、100人から1万円の方が、人の繋がりの多様さ、継続性といった点ではるかに価値があります。なお、前出の友人が代表を務める「行動する大家さんの会」は、こちらの呼びかけではなく、自主的に募金を集め、当キャンプへ寄付してくれました。当キャンプに当事者意識をもってくれる人たちが増えていると感じさせてくれる好例です。

参加者

支援内容を紹介するのに、参加者のみなさんを含めるのを不思議に感じられるかもしれませんが、実はそうではないのです。「元気村キャンプをやる！」とやっているのは我々であり、参加者の皆さんからお願いされて始めたわけではないのです。物事なにをするにしても、そこに喜びや、楽しみを見出す人がいなければ成立しないですよ。それは寄付や、ボランティアといった社会貢献であっても同じです。元気村を求め、喜んだり、楽しんだりする人たちがいるから、継続できるのです。ただし「喜ばれている」という事実には酔いしれて、自分を見失ってはいけません。喜んでくれる人がいれば、何をしてもいいし、自分たちは正しいというわけではないのです。だから参加する子供たち、お父さん、お母さんたちの声や、声なき声に耳を傾ける努力をし、元気村を作っていくことが継続する上で最も基本的なことになります。回数を重ねていくなかで、お互いを理解し、関係をよりオープンなものにしていくことで、支援するものと、支援されるものという関係を破壊し、このキャンプを続けていくために、同じ高さから、同じ方向を向いた関係を築くことに取り組みたいと思います。

以上、内側からみた元気村キャンプの関係性を紹介しました。この関係性を理解することで、そこに住む人と、外に住む人の相互の理解を深め、このキャンプが必要とされている福島の実状とはどのようなものか？義務や、報酬ではなく、なぜキャンプが成立しているのか？互いに思い至る一助になれば嬉しく思います。

キャンプの振り返り

1日目 (3月28日)

キャンプ始まる！ バス移動～ひだまりファーム

いよいよ始まる、福島っ子元気村キャンプ、2013年春！初めて会う子、2012年春キャンプ以来の子、2012年夏キャンプ以来の子・・・みんながやってくるぞ！なんだか、私が緊張してきたあ（笑）。

参加メンバーが集まって、バスに乗り込み、送り出してくれる親御さんに手を振って、さあ、西多摩へ！バスの中は、福島市からの参加メンバーの元気な声が飛び交っていた。みんな元気だ。昼食休憩のパーキングエリアでは、持参したお弁当をそれぞれ食べる。お弁当を持って来っていないスタッフに、おにぎりやおかずのおすそ分けしてくれた。美味しかったよ。ありがとね。食べた後の休憩時には、キャッチボールや四葉のクローバー探しや思い思いに過ごした。休憩後に乗り込むバスの中は、まだまだ元気な参加メンバーの音がする。

さあ、西多摩に着いた！出迎えてくれるスタッフを見て、「着いたあ・・・(ホッ)」。バスの運転手さんとお別れして、歩いて宿泊施設ひだまりファームへ。

到着して、開村式。お世話になるひだまりファームのスタッフ、キャンプのスタッフ等の紹介等、いよいよって感じ。敷地内をぐるりと廻ったら、ひだまりファームのスタッフの方に指導してもらって、みんなでジャガイモ植えのお手伝い。畑に、ラインを決めたら、土をさくって、肥料をまいて、種イモ置いたら土をかぶせて、大きくなれよと、愛情込める。これで、大きなジャガイモが出来ることでしょう。

その後の自由時間は、敷地内を駆け回ったり、木登りしたり、大縄跳びしたり。木のぼりは、男子に負けず、女子もがんばる！これに感化された？高校生スタッフもかっこいいトコ見せてくれた。

そして、その後は、施設内に入って、部屋割りなど生活していく中でのルールの説明。今回は、手作りしおりがあって、毎日、健康状態を書いて、確認したりしていくよ。お待ちかねの夕飯。たくさん召し上がれ。消灯時間になって、眠る体制になるけど、気持ちの高まりが続くのか、みんなはまだ元気。「寝なさい！」の声。キャンプは始まったばかり。いっぱい楽しんでね。

2日目 (3月29日)

大久野中学校&景観の森・滝本遊び

初日の疲れなど全く見せない子ども達。今日も朝から元気です！！

キャンプの恒例イベントにもなっている大久野中学校へ遊びに出かけます。

お天気は曇りでしたが、校庭には大きな桜の木があり、子どもたちは桜の開花を見ることが出来てとて

も喜んでいました。

今回は生徒会の他に、陸上部、バレー部の大勢の中学生が参加してくれました。

広い校庭でチーム対抗リレーを開催！！ さっそく、チームのメンバーにと子どもたちが中学生を選抜することに！

緊張しながらも、憧れる中学生を前に楽しみを隠しきれない様子。足の速そうな中学生を皆で真剣にそれぞれの意見を言いながら選んでいました。

チームに中学生が配置され、走る順番を皆で決めてそれぞれのスタート地点へ向かいます。

いよいよチーム対抗リレーのはじまりです！

スタートのあのドキドキ、わくわく感が子どもたちの表情から伝わってきます。

『よ～い ドン！！！！』

「わぁ～早い！！！」との声が校庭に広がります。

さすが、陸上部お兄さん達は足が速い！！ごぼう抜き状態です！！

その走る姿を見て圧倒されている子、負けじと食いついて走る子、真剣に次の子にバトンを渡そうと必死な子とさまざまな姿が見られました。

小学2年生と中学生がリレー対抗するのは、キャンプならではの光景ですね。

何回もリレーした後は、お決まりのドッチボールとドロケイをすることに！大人も子どもも一緒に校庭で思いっきり遊びました。昼食は桜の木の下で食べ、みんなの森へ移動しました。第1回目にみんなで木を植えたところです。少しずつですが確実に成長しています。

みんなの森のオジさん達が竹を伐ってくれたので、これを持って前回の宿泊場所、滝本に移動しました。この竹を使い、思い思いの竹細工を作ったり川で遊んだりしました。さっそく川では、竹で作った器で小魚を獲っている子もいました。滝本に前回はいなかった、犬と猫がいたので、子どもたちは大興奮でふれあっていました。

ひだまりファームに帰ったあとは、お風呂に入り晩ご飯。頂いたフルーツをみんなで美味しく頂きました。ご飯の後はチームワークを高めるフラフープを使ったゲーム。みんなでフラフープを高い位置から、低い位置に持っていくゲームです。

今日は、寝る直前まで遊びきった一日でした。

3日目（3月30日）

東京にしがわ大学持ち込み企画・バームクーヘン作り

みんながキャンプにやっと慣れてきて、さぁという3日目が朝から雨 トホホ。

そんなスタッフの泣き顔なんぞはよそに元気な子供たち。午前中はニシガワ大学スタッフによる大かくれんぼ大会だったのが急遽屋内のレク大会へ。担当してくれたのは児童館の館長さんという事も有り身の回りの簡単なモノたとえば新聞紙等を使ったゲームで盛り上げてくれました。

晴れていれば子供たちの写真でも撮りながらのんびりするつもりだったはずが、午後からのプログラム担当の僕ことヤマミチは大忙しの時間を過ごすことに。そう、午後からのプログラムは明日のハイキングのおやつであるバームクーヘンを子供たちが班ごとに焼くというモノ、6つの班が十分な間隔で炭火を焚いたかまどを使わなければなりません、その為に25^{cm}×25^{cm}のブルーシートを張るという作業が待っているのです、この雨の中。ここはスタッフのトシさんやハッピーの力を借りて昼前に作業完了。

そして午後1時雨の降る中子供たちが集まって来る。まずは火起こしから、一発で上手くいく班いかない班、いつまでも火がつかないと出来上がりのバームクーヘンが小さくなっちゃうよー。

でも一番肝心なところは炭まで火が起きたら芯に使う竹をじっくり焦げるぐらいまで焼いて油を塗る、これをやらないと最初にかけたバームクーヘンの種が芯に着いてくれませんし出来上がってから、上手く芯から剥がれてくれませんよ。

「もういいー」「早く早く」「まだー」「熱いよー」という声も騒がしいブルーシートのテントの中、それでも各班のバームクーヘンは着々と太くなっていく。2時間後用意したバームクーヘンの種も品切れとなり、出来たバームクーヘンを雨に濡らさないように古民家に運び早速切ってみる。

「おおー」「うまそー」等とまたまた騒がしい部屋の中で包丁を入れ辛抱の竹からバームクーヘンを外し切ってみると切り口には綺麗な年輪が現われましたとさ、めでたしめでたしwww

その後は班ごとに人数分に切り分けハイキングのおやつに、そして残りを試食に頂きました。すると子供たちは周りにいるスタッフにもおすそ分けをくれました。みんなありがとう、美味しかったしうれしかったよ。

4日目 (3月31日)

ハイキング⇒アートな一日

この日は日の出山ハイキングの予定でしたが、天候不順のため、翌日予定していた「アートな一日」ですごすことにしました。朝から晩までずーっとアートな一日です。

午前中はリーフスタンプでランチョンマット作り。「リーフスタンプ」っていうのは、要するに「葉っぱのスタンプ」。好き好きに採ってきた葉っぱの裏にアクリル絵の具を塗って、ランチョンマットにする布地にペタリ。ただそれだけなのに個性が出ます。一枚の葉っぱにいろいろな色をぬったり、ランチョンマットにオトナ顔負けの余白の美があったり、布地からはみだす大きな葉っぱでスタンプしたり。こどもたちの発想ってすごいです。

午後は木の枝のキーホルダー作り。ノコギリで切って紙ヤスリでひたすらみがきあげます。荒目・中目・細目と3段階の紙ヤスリを使い分けて、信じられないくらいスベスベのキーホルダーができあがりました。こどもたちの集中力ってすごいです。

夕食作りではハンバーグ作りに挑戦。自分で食べるハンバーグを自分の好きな形にこねあげます。女子はハートやドーナツ型が多かったかな。男子は人型だったりアンパンマンだったり。焼く人の都合は

考えずただひたすらおもしろいかわいらしい形を追求することもたちってすごいです。

というわけで、世界で一枚だけのランチョンマットの上に、世界で一つだけのオリジナルハンバーグ。なんてアートな一日なんですよ。

5日目（4月1日）

ようやくかないました！ ハイキング

さてさて、元気村キャンプも残すところあと3日！最終日はお掃除して帰るだけなので、実際は残すところ2日です。この日は曇り空からスタートしましたが、雨も止んで、気温も上がり、延期になったハイキングスタートです！

起床後、頂上で食べるおにぎりを自分でにぎります。鮭、うめ、おかかチーズなど、みんな思い思いに好きな具をいれました！これも子供たちに少しでも食事に興味を持ってもらえればという狙いです。ちょっとはお母さんの大変さがわかったかな？

日の出山のハイキングは、がんだむのお家の近く、滝本からスタートします。がんだむの家の飼い猫、チャーハンも途中までずっとお見送りしてくれたよ。

途中で何度か休憩しながらも、予定よりはやく頂上につきました！頂上の気温は4度。身体が冷えないように、お昼を食べて、遊んで、記念写真をとったら、早めに山を下りました。春だというのに寒かったねえ～

みんな無事に下山！迎えの車を待つ間、近くの川であそびました。帰り道の途中で、瀬音の湯で温泉に入ってから、ひだまりファームに到着！すでにお風呂に入っているので、時間に余裕あり。夕飯までの自由時間、みんな友達とあそんで思い、思いに過ごしました。

食後はお待ちかね、東京修学旅行の計画をたてました。毎年恒例のこの企画。スタッフの間では「毎回やってるし、もうやめようか…」なんて話もあったのですが、どうやらいつも来ている子どもは、これを友達に話して誘っているらしい。そんなわけで、今年もお楽しみ企画を実施しました。

班によって、行き先も、計画のこまやかさもばらばら。さてうまく計画どおりにいくのやら・・・大人のスタッフは何にも口出ししないからね～

食後はこの日で帰るボランティアスタッフの皆さんにご挨拶。夜は、これまたお待ちかねのナイトハイク！

あれも、これもできたのは、予定より早く無事にハイキングを終えることができたからだよねえ～

感想

ハイキングは今回の目玉企画でした。ちょうど地元到手ごろなコースがあったのと、この時期にみんなと一緒にやる企画としてはよかったと思います。実はこの日、ちょっとしたドラマがありました。ある理由で登りたくないという子どもと、僕らスタッフとのお話。詳しくは述べませんが、人がなにか乗り越えた時の表情をみることができました。彼が大人になった時、この話をしてみたいと思います。

また修学旅行ですが、こちらは子どもたちの自主性・主体性を伸ばす企画として、少しアレンジをしました。大人は付き添うだけで、口出ししないというものです。彼らが立てた計画、男の子はやりたいことをすべてやろう！という盛りだくさんな傾向があり、女の子は時間内にやりたいことができるよう、時間を決めて行動するという印象を受けます。

この時点ですでに男女の傾向がはっきりしていますね。世の男性は耳が痛いのでは？

6日目（4月2日）

修学旅行

東京スカイツリー

スカイツリー班は低学年と高学年の小学生6人、高校生の3人と若者一人が付き添いで行った。

スカイツリー当日、まずは駅で切符の回数券を買うところからスタート。電車では、子供たちの話に思わず笑ってしまった地元の中学生がいた。笑いをきっかけに、中学生に「名前は？部活は？」と質問をしまくる子供たち（ゾーマ）。電車の中でお菓子を食べていた子は、隣にいたおじさんにお菓子をあげようとしていた。東京の子供には見られない人懐っこさがあった。

電車には乗り馴れていない様子で、全然関係のない駅で、下車する大人につられてホームまで降りてしまったり。あせった。。。

なんだかんだで、東京スカイツリーに到着。

間近で見るスカイツリーに子供も圧倒された様子。天気予報通りの雨で、霧雨だった。スカイツリーの天辺は雲に覆われて、見えなかった。

雨だったので、水族館（雨の日プラン）に行った。水族館のチケットを買っている間、子どもたちと高校生は水族館のお土産コーナーへ。この間に、子どもたちは買い物満喫。「スカイツリーのお土産はいいの？」と質問しても、目の前にある水族館のお土産に夢中であった。

水族館は大きくはないが、種類は多いものだった。かに、エビ、ペンギン、アシカなどがいた。大人一人と子ども二人のチームで見学。大きな水槽があり、そこに釘つけだったチームもあった。「ブサイクな顔の魚がいる。」と子ども。サメが泳いでいる姿に子どもは興奮していた。

水族館を出ると、再び水族館のお土産コーナーへ。気が済むまで、買い物！！

お昼ご飯。雨が降っていたせいで、外でご飯が食べれなかった。空街の中は人でごった返っていて、席につけるお店がなかった。店を探してさまよった。子どもたちも大人たちもくたびれ始めた頃、たまたま席の空いてる店を発見。ケンタッキー！！！！！！ここで一休み！

空街をぶらぶらしたあと、帰ることに。帰りのスカイツリーは天辺が顔を出していたので、子どもたちで記念撮影。

お昼代が結構浮いたので、スカイツリー付近のコンビニでお菓子を買うことになった。カードを買いたいとねだる子ども。結局子どもはお小遣いでカードを買った。高校生もカードを買っていた。恐るべしデュエルマスターズ！！

帰りの電車は、子どもも高校生も爆睡！！無事に到着し、修学旅行は終わった。

最終日（4月3日）

最終日を迎えました。

昨日の夜はキャンプファイヤーもありみんな夜遅くまで起きていたので、少し朝寝坊してしまいました。

実はスタッフもお寝坊してしまいました(;_ _)

まずは朝ごはんの前に荷物の片づけ。忘れ物が無いように最後のチェック！！

ここでは子供たちの性格が良く出ておもしろい。

落ちてる物は結構同じ子の確立が高くてまた～といった状態でした。

そうは言っても落し物があったりして誰のかわからなくなってしまうものです。

ちなみにキャンプのブログに掲載中です。

心当たりがある方は連絡をお願いします(^0^)/

ひだまりファームでの最後の食事です。

最後の食事はスープとパンとケーキを食べました。

その後は閉村式。

まずはみんなでおりにメッセージを書きました。

一緒に来てる友達、このキャンプで仲良くなった友達、スタッフいろんな人から寄せ書きをもらっていました。

帰ってから読み返したりして少しでもキャンプの事を思い返したりしてくれたら嬉しいですね。

ボランティアで参加していた高校生の3人は大人気！！

年齢が近い分おにいちゃんみたいなんでしょうね。

そしてスタッフみんなからの最後の言葉。

笑顔で送り出す人、思わず涙ぐんでしまう人。

毎度のことながら別れる時はさびしいものですね。

そして歌の時間です。

キャンプ中何度も歌を歌いましたがこれが最後の歌の時間です。

どんどん終わりなんだなあ実感が出てきます。

閉村式が終われば本当にお別れです。

バスを停めている場所まで移動です。

最終日はあいにくの雨。

車でバスを停めている駐車場まで移動です。

本当は森の中を歩いて移動しようかと思っていたのですが残念。

何人かは福島までついていきますが、残るスタッフはここで別れ。

スタッフも子供たちもお互いに手を振っていました。

なんだかお寝坊したわりには予定よりも早くひだまりファームを出発出来ました。

みんなが素早く行動したおかげですね。

途中お昼ご飯を食べたり、トイレ休憩の為に何度かサービスエリアに寄りながら福島まで向いました。

サービスエリアでも雨が降っていたので、昼食はバスの中でみんなでおにぎりを食べました。

そんな中大事件が発生！！

一人の女の子がトイレに行きたくなくなってしまい、運転手さんに急遽サービスエリアに寄ってもらうことに。

「もれる～！もれる～！」

と叫んでいました。

申し訳ないですが、その光景がほほえましくって思わず笑ってしまいました。

そんなこともありながら郡山に到着。

予定よりも30分近く早く着いたので、保護者の方が迎えに来るまで子供たちと本当にお別れの時間。

郡山は小学6年生の子供たちが多く、そのうちの一人の女の子が

「終わりよければすべて良し！！」と言って帰って行きました。

きっと楽しかったんだろうなと思い、嬉しくなっていました。

福島にも予定より早く到着しました。

子供たちとお別れした後は、数人の子供たちと保護者の方に見送られながら、スタッフの乗せたバスは東京へ出発しました。

東京へ向かうバスの中ではキャンプの話で持ち切りでした。

スタッフからのコメント

<子どもチーム>

今回、子ども班ではひとつだけ目標がありました。それは参加した誰もが「気持ちを伝える」ということ。楽しい気持ち、やってみたいこと、疲れたこと、怒っていること、悲しんでいること、さまざまな感情と希望を、毎日少しずつ加わるチャレンジを通じて出してもらえよう相談をしながらキャンプを進めていました。

キャンプの中では、それぞれが「気持ちを伝える」ために、コミュニケーションの機会を意識的に増やしました。グループ行動はもちろん、朝夕食時の席替え、荷物の整理整頓、時間つぶしのゲームでさえ、ささやかな協力と相手を見る機会がありました。また、全体を通じて、挨拶からはじめることで多くの大人、子ども同士のコミュニケーションが生まれたことは、このキャンプをまとめあるものにしていました。

重複するところもありますが、各日程の子ども達の様子をまとめてみました。

1日目：挨拶と生活ルールづくり

キャンプの初日。久しぶりに再会する子ども同士もいて盛り上がる車内。サービスエリアでの休憩でも、鬼ごっこやキャッチボールをしたり、お互いのお弁当を覗きあっては楽しんでいました。バスを降りてからは、キャンプを過ごす場所の紹介。川で水切りをしたり、オタマジャクシをとったりして、水辺の子ども達は本当に気持ちがよさそう。じゃがいも植えつけ畑作業。しばし自由な時間の中で子どもたちの個性が表れてきました。木登り、縄跳び、アイスブレイク。スタッフとも打ち解けてきたところで、靴の片づけ方やお風呂の入り方など、キャンプ中にみんなが気持ちよく過ごすためのルールを共有しました。グループごとのお風呂の時間も楽しいキャンプの始まりの日でした。

2日目：異年齢とのコミュニケーション

朝は朝食後に勉強の時間。高校生や大学生のスタッフも、一つ上の学年もいるキャンプは即席の学習塾。ピリッとした朝の習慣です。

この日の午前中は地元大久野中学校のみなさんと過ごしました。中学生の方が緊張しているのに、なんだかこちらはリラックス。陸上部や生徒会、バレー部のみなさんにも入ってもらい、本気のリレーは白熱し、3回目には中に混じった大人が参ってしまって一時休憩となりました。そのあとはアメリカンドッチボールとドロケイ。中学生たちも必死で逃げる、投げる中、歓声の声も大きくなっていきました。15分の休憩中も「サッカーやろう！」と誘い合っては休憩もひと時に動き回っていました。まだ3月の終わりなのに汗だく姿で、水分補給とお菓子を補給。桜舞う中で、お弁当になる頃には、頬も紅潮して、服も砂ぼこりになっていました。

午後は「みんなの森」のフィールドへ。ちょっと急な斜面を登ったあとで、体験の森に行きました。

3日目：チーム作り

あいにくの雨模様。にしがわ大学のみなさんを迎え、午前中は室内ゲームとマジックを楽しみました。午後は、タープを張った下でグループごとにバームクーヘンづくりを行いました。できあがったバームクーヘンはおいしそう。自慢のお菓子の「ちょっとちょうだい。」と声をかけると『ここはおいしいはず!』『うちの方がおいしい』と笑いあっては自慢し合っていました。時間はかかったけどおいしいものができてよかったね。

この日、調理に参加したのは3班、4班。『もっとお手伝いしてみたい!』『次は何を切ればいいのか?』と予想以上の声にスタッフも嬉しくなって、料理が一品増えました。

夕食の時間、気持ちが高々と上がっているみんなはおしゃべりしっぱなし。一喝されて緊張感を取り戻し、翌日の予定「山登り」のルールを確認し、荷物も準備しました。

4日目：表現

2日目の雨。山登りは延期になり、表情にもがっかり顔が表れています。延期された分だけ、山登りに抵抗を感じる子もいて、気持ちも曇り気味。

朝の宿題は習慣化されはじめ、宿題ボックスも設けられて、荷物からの出し入れもなく、すぐに始められるようになりました。

葉っぱのスタンプでは、葉っぱを取りに外に出られるので浮き足立って外に出ました。霧雨に濡れることなんて気にしないくらい。いつの間にか雨も止んで、個性ある素敵な作品ができていました。

ハンバーグづくりになると、調理を経験した3、4班は気持ちが少し師匠気分。1班、5班も玉ねぎのみじん切りをたくさんやって、春雨透明スープができました。

帰るスタッフも多かったこの日、感謝の気持ちを歌にのせました。みんなの表現が届いてたくさんの大人の涙と感動を呼んでいました。

ところで6日目はどこに行くの?と声をかけると「東京修学旅行!」と大きな返事。みんなが意見を言えることも、このキャンプでは大切なこと。寝る前のひと時、3分ずつ時間を区切って、グループごとに「何をしたいの?」「どんなおみやげが欲しいの?」「どこに行きたい?」と少しずつ言葉を変えながら、意見を出していきます。たった3分ずつのお題の中、どんどん言葉が、希望が声にあふれてくる様子は見ていてなんだか楽しくなるくらい。スタッフはただ子どもたちの言葉をメモして、引き出していきました。

としさんの発案で夕食の席決め紙コップで秘密のくじ引きを引き当てた4人は、キャンピングカーの中で、さらなる特別な夜を過ごしたかもしれません。(うらやましい。)

天気予報は、晴れの予報!気持ちも新たに整理整頓して寝るはずが、室内で過ごした2日間でエネルギー満タン。翌日の登山のために少し早く寝てもらい、風邪をひかないように、寝た後にスタッフでも子どもたちの布団をかけ直しました。

5日目：登山

朝から登山の一日は、年齢も体力も違うみんなと一緒に登ることの難しさを教えてくれました。先頭グループを交代しながら、グループの間で歩いたり、最後尾を歩いたり、たくさんの大人がうへえとな

っている時でも、けっこう大丈夫な子どもたちの表情。山頂に立つと、ひそかに満面の笑みを浮かべる男の子、はしゃぐ女の子、グループごとに再びバームクーヘンの試食会がはじまりました。

登山を終えて、今回はじめての公共の温泉です。「次のキャンプのみんなのために静かに入ろう。」と声をかけると、静かに行儀よく入っていた姿が印象的。それでも、地元のおじちゃんに話しかけられると、つい声が大きくなって話をはじめると、このキャンプを楽しんでいた証拠かも。帰りは、十数分の車内の中でもうとうとするくらいによく歩いた登山でした。

本日の料理当番は2班、6班。キャベツの千切りもあつたりと、グループは変わっても毎日チャレンジが増えていきます。

他のグループは戻ってきた後しばしの自由時間。ゆったりまったり過ごした後、前日に出し合った意見をまとめ、「秋葉原」「原宿」「東京スカイツリー」「お台場」「新宿・東京都庁」までの時刻表を貼りだしました。これは、だいたいの目安。『移動時間に時間がかかれば遊ぶ時間は短くなるし、どうしよう？』『東京スカイツリーは天気が悪いと観られないかも。明日の天気は？』いろいろ悩んで「新宿・東京都庁」は却下され、グループが作られました。

各グループに分かれた後、パソコンやiPad、スマホを持った大人がグループに入り検索に協力して、計画をたてて行きました。計画表ができたら、明日はその通りに大人が協力してついでいこう。というのがスタッフルール。夕食を挟んで、計画表をつくっていく姿にはなんだか頼もしい横顔も見えました。

明日の電車に遅れないように準備をして、きれいに片づけて、おこづかいを確認したり、行く場所を確認し合ったり、特に高学年の女の子たちはデートの前のようにそわそわしていました。

自由参加のナイトプログラムは、半分以上の参加で静かに暗い夜道を歩きました。手探りでリスが残したクルミの食痕を探したり、ムササビの巣箱をライトで照らしたり、「他の動物のために静かにもどろう。」と優しい言葉を掛け合いながら戻る場面も見られました。

翌日に向けて夜12時を過ぎても興奮気味な高学年は、おしゃべりをしながら寝ていきました。風邪をひかないように、寝た後にスタッフでも子どもたちの布団をかけ直し、ゆったりと眠ってもらいました。

6日目：相談して自分たちで決める。

電車で遅れてもいいかな？なんてことを思っていたのに、キリッと片づけを進める子ども達。予定よりも30分以上早く準備を終えて『いつ出るの〜？』と急かせる姿は自信満々。さあやっとうとう東京だ！なんて気持ちでしょうか。（この報告は各チームの記事で。）

帰ってきてパーティーだ。これまで入ったことのなかったスタッフ棟はちょっとしたディナーが用意され、ジュースもいっぱい。ビュッフェ形式(?)で各自のお皿に盛りつけて、いただきますをするとワイワイガヤガヤ「スカイツリーが」「原宿は」「お台場も」「秋葉原で」いつの間にか報告会になっていて、おなか一杯食べました。その途中、ぼーちゃん感動のありがとうのクッキープレゼント。密かに準備したかいもあり、送った子どもたちも送られた方も言葉にならない嬉しいプレゼントがあるんだってことを体験しました。

ケーキもゼリーも出てきた後でディナーは片づけ、ガメラを中心にパーティーは続き、体も動かしながら楽しい夕べ。歌っていると少ししんみりすることもあるけれど、楽しい夜になりました。各チームの報告もしっかりできて、時間が足りなくなるほど。

7日目：最終日

最終日。もう帰るだけの朝。使い慣れた布団もシーツやまくらカバーを外し、重ねて元の通りに。

朝ごはんが済んだらきっちり片づけ。いつの間にか片づけ上手になっていた子ども達。「ずいぶん早くなったな。」ってリーダーに褒められて嬉しい顔してる。忘れ物だけは確認したけれどいくつかは残りました。片づけが終わって空いた時間に、布団棚に入ってはカンガルーの子のように顔を出して大人を困らせるのも寂しさの表れでしょ？

終わりの会。大人の言葉がどれほど届いたか分からないけれど、伝えたい気持ちは大人も一緒。みんなで過ごせたことが嬉しかったし楽しかったっていうことが、子どもたちの言葉の下でも見え隠れしていた。キャンプの冊子にメッセージを交換しながら、文字にはできない笑顔も交わし合っていたよね。

帰りのバスの中、ずっと一緒にいるような気持ちになっていて、郡山駅で手を振って、福島駅で全員が降りたバスの中はスタッフの大人だけ。

「あー、もっとあいつらに体験させてやりてえ、俺、今度は体験を奪うようなことしないようにしなきゃ。」とスタッフ参加した高校生の言葉。この愛情が、想いが各スタッフの中でくすぶり次のキャンプにつながると思うと、わくわくせずにはられません。

最後に、子ども達のために調理を準備してくれた料理チーム、キャンプの目的にそったプログラムを用意してくれたにしがわ大学や活動チーム、お風呂その他生活に関わる施設の準備をタイミングよくしてくれた日だまりファームのみなさんや生活チームに感謝。子ども班のわがままに応えてくれた各班のリーダー、ボランティアスタッフ、村長のぼーちゃんやガメラに感謝します。

1班：ハッピー

ゆうと、ゆうだい、はやと、りん、そうま

2班：としさん

まろくん、ひろき、しょうご、えいじ

3班：こうき

ひびき、かなた、そうご、なおや

4班：かじゃ

りく、しもん、りょう、あゆむ

5班：まえじま

はな、ゆう、ほのか、あやね

6班：こうちゃん

ゆき、ひな、なつき、まお、あやこ

<食事チーム>

3月38日

キャンプ初日の夕食は、カレーライス。子どもたちは、おなかがすいていたのか、モリモリと食べていました。初対面のボランティアさん、久しぶりに会うボランティアさんがドキドキわくわくしながら、食事を共にしました。

3月29日

朝食は、みんな控えめです。給食で出されているという、絵本の中に出てくる「りっちゃんサラダ」を出しました。子どもたち全員が知っていると思っていましたが、知らない子もいました。

昼食は、調理師万菜美さんのスペシャル料理です。鶏のからあげは、大人気でした。夕食は、武蔵五日市などで、昔から栽培されている「ノラボウ菜」を使った料理を出しました。くせがあって、子どもには、食べにくい野菜でしたが、食べてくれました。

3月30日

観音山フルーツガーデンさんから頂いた、おいしいフルーツを食べました。1人の男の子がパクパクとお皿に積み上げて、食べていました。この日は、人数も多く、食事班も大忙しでした。

夕食前に行く、料理のお手伝いの時間、男の子も、女の子も楽しそうにお手伝いしています。大忙しな、食事スタッフも子供たちとおしゃべりしながら、楽しい時間を過ごしました。

午後からは、バームクーヘン作り。ハイキングで持っていくおやつも、自分達で作りました。



3月31日

今日は、ハンバーグ作りの日。子供たちが作ったハンバーグが次々とキッチンに。料理のお手伝い、バームクーヘン作り、そして、ハンバーグ作り。自分で作り、自分で食べることで、食事が楽しくなります。

ボランティアさんの手作りケーキも食べました。子供も、大人も大興奮でした。今日は手作りいっぱいので、なんだか心が癒されました。

4月1日

今日は、ハイキングの日。昼食で食べるおにぎりを自分達で作ります。子供たちは、自分が食べられる量を考えながら、作りました。そして、作ったおにぎりをバックにつめて、元気にハイキングに出発しました。

この日の料理のお手伝いでは、タマネギやキャベツを切る作業。手を伸ばして「次、私がやる！」とみんな、積極的です。

4月2日

キャンプもあと1日で終わります。みんなで食べる時間も残りわずかで、寂しさを感じながら、みんなと食事の時間を過ごしました。修学旅行から帰って来た後はみんなで楽しくバーベキューです。子供た

ちが、ジュースやお肉をよそってくれました。家族のような、空間がそこにはありました。

4月3日

ついに、キャンプ最終日がきました。なんだか、みんなさみしそうです。しかし、いつもと同じように食事の時間が始まりました。このまま時間が止まればいいのにと思いながら、食べました。

そして、最後の「ごちそうさまでした」という声が響きました。7日間、みんなで食べて、みんなで作って、食事の時間を通して、子供たちは多くの事を学んだと思います。

<企画班チーム>

今回のキャンプで4日目に（実際は雨の為5日目となったが）ハイキングというのは最初に出た案だと記憶している、しかし8日間というキャンプの中でそれだけでは盛り上がりには欠ける。そこで今回から力を入れようとしているねらいの食育も取り入れておやつのパームクーヘン作りとハイキングの朝に自分達でおにぎりを握りお弁当にするというプログラムへと膨らんだ、結果これはとてもよかったと思う。次回のキャンプのプログラムはどのようなモノになるかはキャンプ地が決定していない今現在では思いつかないけれど、キャンプの原点であるキャンプとは最低限の道具で行う生活であるという事にまた一歩近付ければ良いなと考える。

<医療チーム>

今回は、ボランティアさんを含めて4名の女性スタッフが医療班で動いていました。お母さん?!と同じ位の年齢なので、子どもたちも安心してきているのが伝わってきました。春の西多摩は、スギ花粉がひどく、事前の健康管理カードで、花粉症の子どもたちが多かったのが心配しておりましたが、福島のお母さん方から大量のマスクとティッシュのご支援もあり、子どもたちも大人も乗り切ることが出来ました。

日々の中で、小さな怪我や体調不良はありましたが、何かあったら子どもの方から伝えてくれたので、すぐに対応することも出来て、一週間を通して大きな怪我もなく過ごすことができました。そして子どもたちは、毎日一日の終わりに、しおりに書いてあるセルフチェックを自分でしたり、具合が悪い子や怪我をした子には子ども同士で声をかけあい、助け合っており、私たち大人はそばで見守るだけでよい事が多かったです。

感想 前回の夏よりも身体が大きく成長していて驚きましたが、キャンプを通して他人を思いあったり、助けあったりしている姿をたくさん見る事ができ、心の成長もしているなと感じました。これからも、子どもたちが安心して楽しむことが出来、心と身体の成長を支えることが出来るキャンプに大人たちも子どもたちと一緒に作りながらいけたらなと思います。

